令和7年度第2回御嵩町総合教育会議

日時:令和7年 12 月 25 日 13:10～14:18
場所:御嵩町役場本庁舎2階　第二委員会室

出席者:

町長部局	渡辺町長、筒井副町長、山田総務部長、土谷総務課長、加藤行政管財係長
教育委員会部局	奥村教育長、中瓦教育委員、山口教育委員、中島教育委員、亀谷教育委員、髙木教育参事、髙木指導主事、澤田学校教育係長

髙木教育参事　それでは、第２回御嵩町総合教育会議を始めさせていただきたいと思います。

次第に沿って行いたいと思っております。最初に町長から挨拶をお願いいたします。

渡辺町長　今ちょうどインフルエンザが向陽中で流行っています。最初は伏見のほうで流行っていて、それから上之郷に拡がり、なんとか飛び越えて終わるかと思っていましたが、やはり中・御嵩地区でも流行りだしました。これから年末をむかえ学校も休みになっていきますけれども良い正月が越せると良いと思っております。

皆さまのおかげで、今年も無事に学校教育のほうも特に問題なく過ごせたのではないかと思っております。

特に御嵩町としては、今年は町制施行 70 周年ということで各種イベント、行事そして式典という部分も開催させていただきました。いろいろなご協力をいただきましてありがとうございました。今までやったことがなかった学校の生徒たち全員が一同に介して行った人文字もありましたけれども今まで以上に小中あわせて６校が非常にネットワークを持ちながら様々な行動ができたのではないかと思った次第でございます。

私もいろいろと機会を見つけて、様々なところに足を運びながら進めていきました。特に自分がスポーツが好きなのでスポ少であるとか地域移行を受けた部活動などには全部顔を出させていただきましたが見てて思っているのが、やはり御嵩町という大きな枠組みの中で考えたときに学校の生徒だからということではなく、ゆくゆく考えると御嵩町の中の大切な財産であるということを改めて思いま

した。担い手としてということも含めて、いろいろな意味で町のこれからのまちづくりであるとかいろいろなものに参画いただきたいということをすごく思っていた次第でございます。そういった意味も含めて、学校教育の部分とふるさと御嵩町との関わり合いというのは今後ますます必要ではないかと思っております。そういった意味で今回の資料にもありますけれども教育大綱という形で、これはどちらかというと教育委員会というよりも町の方からの教育に対するメッセージと思っていただければいいかと思いますけれども、そういったものを別におさえさせていただいて、メッセージを発していきたいと思います。今後いろいろな取組をしていきたいと思っておりますのでご協力いただきながら、連携しながら、子どもたちの成長、未来のまちづくりというところも含めて進めていきたいと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いしたいと思います。

高木教育参事　ありがとうございました。それでは次第２の議題にまいります。御嵩町教育大綱についてということで進めさせていただきたいと思います。

まずもって８月に令和７年度第１回教育総合会議を開催させていただきまして、そのときに教育委員会としては教育大綱がこれまで御嵩町では夢プランと一体となっておりましたので、夢プランにつきましては第５次改定を今年度策定するにあたって、引き続き教育大綱を夢プランと一体型で作らせてもらいたい。それで教育大綱につきましては総合教育会議の中で協議して定めるものとなっておりますので前回協議し諮らせてもらいましたが、あらためて教育大綱と夢プランのほうは別個で作っていくという方向性になりましたので教育委員会のほうでは教育大綱と夢プランと同時に策定作業を進めてきたところでございます。この度、教育大綱案のほうが固まりましたので、総合教育会議のほうで皆さまのほうに意見をいただきながら、誤字の訂正等があればそれを踏まえた訂正をして完成した形にできればと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

では、教育大綱案という資料に沿って教育大綱の考え方についてお話しさせていただければと思います。

１枚めくっていただきまして大綱の策定の趣旨です。教育大綱というものは地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１条の３に基づき本町の実情に応じた教育・学術・文化・スポーツの振興に関する総合的な施策について町長が教育委員会と総合教育会議において協議した結果を踏まえ目標や施策の根本となる方針を定めることとなっております。ですので教育に関しては大綱が１番上にありまして今年度策定している夢プランがそれの実施計画にあたるような

ものと思っていただければと思います。大綱の位置付けとしまして少し図式化しておりますけれども、まずもって国のほうでは教育振興基本計画というものを作っております。それを参酌して岐阜県のほうでは、岐阜県としても教育振興基本計画というものを作っております。町が教育大綱を作るうえで国や県の教育の方向性である基本計画を参酌しつつ、あと今年度、御嵩町は６次の総合計画を作っておりますので、教育大綱はそれとも整合性を取らないといけませんし、夢プランのほうも教育大綱と整合性を取らないといけませんので、今は２つの計画と大綱を整合性を取るように今回作らさせていただきました。

続きまして大綱の見直しについてですけれども大綱につきましては期間を定めることなく改定が必要な場合に適宜見直していくものとしていきたいと思います。そのため社会状況や教育環境の変化が特別大きく変わらない限りは、この大綱を基にして教育を進めていくという考え方でいきたいと思っております。

続きまして２ページの基本理念についてです。基本理念のほうには郷土を愛し、未来を創造する人間力の育成とし、副題として、ともに学び、支え合い、心豊かに未来を築くということとしていきたいと思っております。この基本理念の考え方として少子高齢化の進展、グローバル化やデジタル化の加速など社会環境が目まぐるしく変化する中、持続可能で活力ある地域社会を実現するためには自ら問いを立て、行動を起こし、想像力を発揮しながら粘り強くかつ柔軟に課題解決に向かう人間力の育成が重要となります。御嵩町の未来を創造する人間力の向上に向け、町は時代の変化を的確に捉えた柔軟な教育施策を推進します。これにより、子どもも大人もともに学び、誰一人取り残されることなく活躍できるまちを目指しますということとしております。

まずもっては、郷土を愛しということを念頭に置きながら、そこに未来を創造する人間力の育成で、そこには子どもから大人までを教育というところで育成していきたいと考えております。

次に基本理念に基づいた基本方針を３つ設けさせていただいております。基本方針の１つ目としては、郷土を愛し、よりよい社会を創造する力を育むということです。御嵩町の自然、歴史、文化への誇りと愛着を育むふるさと教育を充実させるとともに、変化の激しい社会に対応できる柔軟性やたくましく生き抜く力を育成する教育環境を整えます。一人ひとりが郷土愛に根ざしたよりよい社会の創り手として、自らの可能性を見出し、広げていく人づくりを目指します。

次に基本方針の２つ目ですけれども、互いを認め合い、支え合う共生社会の実現を目指すです。多様性を認め、受け入れ合える社会を築いていくことは、これからのグローバル社会に生きる力を育むことにもつながります。家庭や地域における様々なつながりを通して、子どもも大人も社会とのつながりを深め、互いを思いやる心と感謝の心を育む人づくりを目指します。

基本方針の３番目として、生涯にわたり学び、心豊かにいきいきと活躍できる環境をつくるということです。自分らしく健康で心豊かに暮らしていくために、生涯にわたり学びたいことを学び続けられる環境を整備します。スポーツや文化芸術を通じて、一人ひとりが生きがいを見出し、学びの成果を様々な分野で発揮できる人づくりを目指します。

という風な形で考えております。

それに基づいて今回夢プランも作りましたので、夢プランのほうは、この教育大綱をどのように考え、教育委員会のほうでどのように進めていくべきかというところを定めた計画ですので、今一度お配りしました夢プランの 21 ページをご覧いただければと思います。

夢プランについては、今の教育大綱を実現するための具体的な施策を打っていこうというものでございます。まずもって教育大綱の基本理念から御嵩町の教育を通して目指す人間像と育みたい力というものを考えてやっていこうと思っております。目指す人間像といたしましては、郷土を愛し、よりよい社会の創造に主体的に関り続ける人を育てていきたいと思っております。その中で育みたい力として２２ページの方になりますけど自立力。これは進んで学び、考え、行動する力です。次に共生力。つながり、認め合い、支え合う力。想像力は知恵を出し、よりよい未来を築いていく力。この３つの人間力につながる力を育んでいきたいと思っております。

さらに２３ページ第５章の方で、こちらの基本方針に基づきまして基本目標と取り組む施策の体系を考えております。

２５ページの方をご覧いただきたいと思います。

まずもって教育大綱の基本理念と基本方針がございまして、これに基づいて町の夢プランの中では目指す人間像を示して、その中で育みたい力を考え、そこで基本目標としては５つの基本目標を立て、１６の施策を展開して、今後５年間やっていきたいと思っております。基本目標の１番目は生きる力を育む教育の推進ということで、豊かな心の育成、確かな学力の育成、健やかな体の育成、多様なニ

ーズに応じる教育の推進それと次の基本目標の２の魅力ある学校教育の推進の中では、学びを支える教育体制の整備、信頼される学校教育の推進、それから基本目標の３の学びを支える教育環境の整備の安心・安全な学校づくり、学習環境の整備、こちらの基本目標の３までは主に学校教育分野のことについての計画となっています。

次に基本目標の４の愛情あふれる家庭教育の推進というところで、やさしさや思いやりを育む家庭教育の推進。こちらはうちでいう生涯学習課の分野のところで家庭教育をやっておりますが、この方針でやっていこうと思っております。基本目標の５では、生きがいと共生を目指す社会教育の推進ということで、生涯学習の推進、青少年の健全育成の推進、地域に根差した公民館活動の推進、歴史的資産の保全と文化活動の推進、中山道みたけ館を拠点とした郷土の学びと読書の推進、スポーツ活動の推進とスポーツ環境の充実。こちらの７つの施策を生涯学習、社会教育の分野ではやっていこうと思っております。

あと１枚めくっていただきまして計画の中身といたしましては、基本目標ごとにその次の施策の現状のここ５年間くらいの現状と課題を洗い出しまして、その後今後やっていく重点事業というものを定め、重点事業の中でもその分野に必要な取組を例示させてもらうような形でこのような事業に加え、細かい事業もやりつつ豊かな心の育成をやっていきたいと思っております。そしてその施策がどの程度実現できたかということを考えるために、これまで数値目標がないというようなご指摘をいくつもいただいておりましたので施策の指標として作って、それを１年ごとにどれくらいできているかというところも確認しながらやっていきたいと思っております。

なお、まだ指標については完全な状態にはなっておりませんので、これにつきましては夢プランの策定協議会というものをやっておりまして、昨日今のここにある原案についてはほぼお認めいただきまして次回指標について説明させていただいて認めていただくという形で夢プランのほうは作っていこうと考えております。本日はこちらに提出させていただきました教育大綱の教育理念から基本方針をお認めいただくような形の話ができればと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

説明のほうは以上となります。

渡辺町長　　今、教育大綱と夢プランという形で紹介をさせていただきました。体系図についてページでいうと、大綱の１ページにありますようにもともと総合計画を今計画中でありますけれども、６次の総合計画

の見直しにあわせまして、いろいろと取組をブラッシュアップしておりますが、その中で２１世紀御嵩町教育・夢プランということ、それをつなぐ意味で理念として町長部局のほうで教育についてこういう理念でいきたいということも含めた教育大綱という位置付けにしております。今、概要と言いますか考え方を説明させていただきましたけれども、これについて何かご意見等ございましたらお伺いしたいと思っておりますけれどもよろしいでしょうか。一言ずついただけたらありがたいと思います。

中瓦委員　　私は昨日、夢プランの策定委員会に参加させていただきましたので、その場参加された委員からいろいろなご意見をいただいて、本当に真摯に皆さんが受け止めて考えていただけるのがありがたく思いました。本当に何をこの町の目標にしているのかというところで、今回は大きくしっかりと出していただいたのがわかりやすい。このまとめ方自体をみても分かりやすいので評価をいただきました。ただ、指標がまだこれからと言われていたので、そこはこれから詰めていかれる部分だと思いますが、あと、評価をしていくときにどのような評価をしていくのかというところで、評価委員会がまたあると思いますが、そのときにどういうふうに評価していくかというのが、この指標でいいのかという話も少し出ておりましたので今後検討していただきたいところかと思います。

中島委員　　言葉はとても素晴らしいと思います。未来を創造するというので、変化であったり、イノベーションをイメージするんですけれども、そういうのが苦手な子どももきっと居て、今できることを着実に一歩ずつやっていくことしか見えない子どももいると思います。そのような子どもたちを取り残さないような教育が必要なのかな。そうやって着実に進めていった結果として、変化があるかもしれないので、そういう可能性があるということも上手に伝えていきながら教育ができるといいと思いました。この前の郡上であった講習会でも先端をいっているようなイノベーターのような人がいて、そのような人を岐阜県内にたくさん作りたいというような話だったんですけれどもそこになれる人はごく一部だと思っています。それになれない子どもたちをしっかり将来に期待が持てるような教育をしていかないと子どもたちが楽しくないのではないかと思いました。

亀谷委員　　難しすぎてよくわからないのが正直な感想で、私自身も自分の子どもがまだ小学生なので現実のことしか見えていないというのがある。プランとしてはそうなればいいなというのはすごく伝わるんですけれども私自身は目の前の今起きている現状といいますか今子どもたちが置かれている現状をどう対応していくかということで正直

精一杯な部分がある。これが本当に先ほど言われたように取り残されない子どもがいるとか、そういう未来に向けていろいろなことがうまくいくのはすごい良い話だなというふうにしか今の私には正直受け取れないというか現実の今の状況のほうが私自身は来るというか本当に創造というのが夢プランというふうに私自身は受け取れてしまいます。

山口委員　　中島委員が言われたとおり言葉としては非常に素晴らしい内容の示しができていると思いました。例えば中身でいくと２２ページの自分で課題を見つけていけるようにといった自立したという文言があったかと思いますが、社会の関心を高め、課題意識を持ち、自らを問い立てながらというところに向かってほしいんですけれども、例えば課題意識とかも教える方がこういうふうだと教え込んでしまうということがあって、本来それが間違えじゃないかということに気付けないようなことをしてしまうとこれは自立心ではなくて与えられてしまうことになるので、課題なども大人たちがもっと広い意味で課題を見つける。例えば、どうしてもテストの点数が低くなるというときにこれをなんとかしないとってなってしまうんですが、そうすると見失ってしまうところがあって、そういうことをやっていくとこの SDGｓの精神にならない。つまり取り残されてしまうので、例えばそういうことだけ追っていくと逆の問題が起きてくるといったようなことが実際に起きているということも自分たちが分からないといけないので、この文言には入らないんですけれどもそういう方向でやはりテストはできなくてもこちらのことはすごく能力が高いといったように、今大学受験とかも少し変わりつつあるようですので、そういうことも少し頭に置きながら進めていきたいと思いました。

中瓦委員　　先ほど取り残されないというのがあるんですけれども取り残されるのではなくて自分から入っていかない。自分が進まない。これは子どもだけではなく大人も関わらないという部分をどうやって引きずり込んで皆が関わっていくような形にしていけるかということをもっと主導的に引っ張れたらいいといつも思うんですけれども、会議みると今回は本当に皆さん一生懸命に発言してくださったんですけれどもそれを当たり前ではなくて今まで会議はなんとなく引いて黙って帰るというようなところもあったかもしれない。今回は本当に皆さん積極的にいろいろお話しいただいて、そういう形にどんどん作り変えて町全体の機運がそうなってくると全然変わってくるんじゃないかと思う。それを子どもの段階からどうやって想いを作っていくかというのが難しいですけれどやりたいことです。

渡辺町長　　去年とか私個人としては教育に限らず色々な分野で車座というものを少しやらせていただいて、とにかく意見を言ってください。聞きますということをやったんですけれども一部学校に入りました。学校に入って叶う叶わないは別として、普段思っていることとかこんなふうになったらいいというまさに夢みたいなものですけれどもそういう話を少し聞く時間を設けていただきました。そうしたときに本当に生き生きと話しているような印象がありました。あまり責任感無くということにしているので。ただ本音をしっかり伝えてということであれば、場をしっかりと整えてあげられるとそういう話ができたりとか、あるいはコミュニケーションが取れたりできるのかなと薄っすらと思ったんですけれども来年ぜひ私がやってみたいと思っていることがあって、延長線上なんですけれども各小中で６校ありますけれど、できれば１コマもらって授業がしたいと思っています。先ほど山口さんが言っていただいたように、こちらからの押し付けというふうになってしまうと、今このようなことになっているからこう気を付けてというようなことをやるつもりはさらさら無く、どういうふうに進めたいかも含めて子どもたちと事前に相談しながらこんなことをやってみたいとかこんな発表するから感想がほしいとか。あるいはがやがやとした車座のようなものをやりたいというのかなんでもいいのでとにかく聞くところまでコミュニケーションをとって分かち合いをしたいと今思っております。そういうのを取り組んで、せっかく大綱という形で我々の方も意見をぶつけさせていただいたので何か具現化するような取り組みをしていきたいと少し考えている次第でございます。どういうふうに動いていくのかわからないですけれども決してその中で発言せずにということではなくて、皆がなにかを話せたりコミュニケーションを取れるようなそんな環境を作っていけたらと思っております。

あともう一つとすると大綱の中で少し自分の想いを込めさえていただいたのは、どうしても今いろいろな教育の中でＡＩが出てきています。情報化。あるいは知識としていろいろなことが入手する情報、ソースはあるので、そういったことはあるんですが最終的に将来育っていってほしいのは私の中のキーワードは人間力でした。それが人によって人間力は違うので先ほど中島さんが言っていたように得意なのがあるかもしれないですし、そういうのも含めて、あるいは道徳とか感謝とかそういうところもあるかもしれないですし、そういった本当に人として人間として柔軟性も含めて社会に出て行けるようなそんな人が出てきたらいいなと。これは教育分野ということに限らず広い意味でのそんな人材育成ができたらいいと思う。その立派な一人なので他の町民の方と一緒のように一人の大切な人

というような育て方ができたらいい。朧気ですが理念としてはそんなところを込めてこういうものにさせていただきました。

山口委員　　今言われたことで少し思い出したんですけれども今は学校の先生の働き方がなかなか休みだとか夜だとか子どもを引率してでるのが難しい状況の中で昔のように子どもたちが参加するという機会が減っているのも事実だと思います。それは否定するわけではなくて、例えばＰＴＡとかでも今学校へできるだけ来ていただかないような保護者の負担を減らすという趣旨だと思いますが、そういうような流れで来ていてそれも全然否定はしていないです。でもいろいろな出ていくものがなくなったり、学校に来て話をできるような環境も少なくなってくると町長が言われるように子どもは子どもとして地域のところに出るなら出るということを自立で出てくるようなそういうことを教えていかないといけない。教えるということもおかしいかもしれないですけれども、そういう導き。今までは先生が生徒や児童を連れて行っていましたけれども、それが無くなってくるのであればむしろそれを自立するチャンスとして子どもたち自ら参加しましょうというような地域もそういうのにできるだけ声をかけてあげるということが必要かなと思います。

渡辺町長　　特に地域移行を受けた部活動とかをやっているとすごく感じます。学校で部活動という部分でやっていた形とそれは地域の方へお任せしますということで、地域として部活動を見ていくということになった瞬間からやはり随分発想が変わってきたなと思う。その前後を体験してきた者からするとすごく変わったなと思いますので、おっしゃられるようにふるさと教育という言葉は書いてありますけれども今朝も少し話したんですけれども参画という意味でもまちづくりとかの部分にどんどん参画してもらいたい意見をいってもらいたいと思います。今過ごしている子どもたちがやがて大きくなっていったときにどんな町であってほしいのかというところがすごくほしいなと思っているのでそういったことが気軽に来て、いろいろなところに参加できて、発言できて、楽しめるというようなそんな取組とか。それは地域文化かもしれませんがそういったことをできるだけ機会を、場を与えていけるようなことができればと思っています。防災なども山口委員でと言うと防災もすごくきっかけになるのではないかと思います。防災クラブができたので余計に思うんですけれどもそういうふうに思っています。

奥村教育長　　その辺の願いみたいなものが、やはり理念の郷土を愛しというところに根差してるんではないかなと思います。郷土愛というのは大綱の３ページの基本方針１の郷土を愛している社会を創造する力を

育むというその下の文書の中の後半に一人ひとり郷土愛に根差したより良い社会の作り手としての自らの可能性を見出し拡げていくといったようなそういう人づくりを目指しますというところがやはり子どもたちも含めて地域の町民の人たち一人ひとりが今話題になっているような主体的に参画していくというそういう原動力はやはり郷土愛ではないか。郷土とのつながりがいかに深いものであるか。先ほど町長も言われたようなただ地域を学ぶだけではなくて地域との関り、地域に働きかけていく。山口委員もおっしゃられた出ていくという体験や学びというものがあって初めて郷土に対する想いは深まっていくと思います。それで大綱でここを示していただいたということが大変意味深いことだし、町としての願いも込められているなということを思いながら、この夢プランのほうでもやはりそれを踏襲しながら２１ページのところの願う子どもの姿、それからその下の丸に示したような教育での子どもたちの様々な体験、学びというのが原動力になるんだ、地域のより良い創造に向けての原動力になるんだという捉えを一貫して踏まえていきたいなということも思いながらここのところを捉えていきたいと思っているところです。

渡辺町長　　ただちょっと２点だけ。それが地域にあらねばという押しつけには絶対にならないようにしたいなと思っているので、そういうふうなことは目指すかもしれないですけれどもアプローチもいろいろある、個人個人によっていろいろ違うということと、もう１つはお子さんにそれに参画してくださいといった場合については絶対にそのことは大人にも同じことが言えますので我々なり担うところが、まずそれがコミュニケーションをとって地域にというところが出てこない限りは子どもだけ行かせるというわけにはいかないので、そこは率先して実施していくということが必要であると思いますし、そういうことがやれるような我々まちづくりをしていかないといけないとあらためてこれを作りながら自分たちのことを言っているなということを思っていたのでそういうふうに少し感じていきたいというふうに思っています。

中瓦委員　　今いろいろな仕掛けを作っていただいていて、皆がいろいろなイベントに参加できる形を作っていただいていると思います。ただ、どこまで皆がそれに関心をもって動いてくれるかというところで、教育に関しても、もっともっと大人を引っ張り出せるような仕掛け作りがほしい。ボタンティア活動とかいろいろ出していただいてるんですけれども。ちょっと話がずれるかもしれないですけれども、前に研修会のときに一緒のグループで話をした方が、地域に学校活動に関するボランティアの募集をしていると言われて、意見書の中

にもあったんですけれども、関わりたいと思ったときにどんな形で関っていいかわからない方もいっぱいいらっしゃると思うんです。想いがあっても。それを何かやれる形を作るのも１つの手ではないかと思っていて、そういう大人の力をどんどん活かせるような仕掛けがほしいなと思います。

渡辺町長　　そこを我々も探ってはいるんですけれども、なかなか。

中瓦委員　　御嵩小学校の校長先生がいつも皆が草刈りにきてくれないと言っているが、募集の仕方も悪くて前もってちゃんと応募してくださいといったようなもので、その日に行けるかどうかわからないから応募できないなという人はためらうような書き方がしてあったので、もう少し広く来てくださいというのが出せるといいなとあのときも思ったんですけれども、もっと草刈だけではなくて学習の状況の中で本当に困っているお子さんがみえたら私たちが１人つくことができれば違うと思います。寄り添うことができれば。そういうボランティア活動は、暇なお年寄りはたくさんいらっしゃると思うので、できると思います。そういうふうにもっと吸い上げれたらいいなと思うんですけれども。

渡辺町長　　子どもたちが興味をもってとかやりたいことをやってとかいうふうで参画できる場を作っていけたらと個人的には思ってるんですけれども、それこそ大人も含めてまちづくりに積極的に入っていただいたりとか地域を知るとか社会の仕組みを知るといったところにつながっていくといいなと思っています。なにか逆にこうすればみたいなものはなにかないですか。率直に。

亀谷委員　　私の子も含めて今の子どもは忙しい子が多くて、休みの日も平日も忙しい子どもが多いかんじがして、たまたま土曜日や日曜日になにかイベントがあって都合がつけばいけるけどとか、なにかスポーツとかをやられている子どもとかだと、練習試合があるとか大会があるとかいうのが入ってくると結局、町でなにかをやってもなかなか参加できなかったりとかがある。よってりゃあみたけのように夜までやっているイベントになると、祭りみたいな感じで年に１回のことだからってことで行きやすい部分もあると思うんですけれども、昼や午前中になってくると本当に子どもたちは忙しい。親は忙しくないけれども、子どもたちが忙しい。自分の子も含めてなんですけれども本当に毎週なにかがあるというのが続いたりするので、せっかく行きたいと思っていてもこっちがあるからいけないとかがあるので、なかなかそれをみんなにあわせるというのが難しいと思うんですけれども、現状やはり子どもたちがとにかく忙しいイメージがある。でも忙しい子どもほどそういうのに参加しやすいモチベ

ーションだったりしてるんですけれども行けない。行きたいと思っていても行けない。言い方は悪いかもしれませんが、暇な子というかそういった子たちは家にいる、別にわざわざ何かがあっても外にいこうとは思わないというところもあったりする。その矛盾といいますか行きたい子たちほど忙しいという気はします。なのでそこら辺をどういうふうにするかですが、調整は正直できないとは思いますが、どうしたらいいのかなという気はします。うちの子も行きたいと言うんですけれども、その日はちょっと行けないよとか結局親の都合ではなくて子どもの都合で行けないということがあるので、例えばスポーツをやっている子は特にそうだと思うんですけれど、いけないのかな。行きたくても行けない。せっかくいいものがあっても参加できない気がします。

渡辺町長　　本当に二極化してしまっているかもしれませんね。徹底的に忙しい人と特に関心はないよという子も含めて。やはりいろいろな子がいるので。

中瓦委員　　その関心のない子をできれば引っ張り出したいですよね。

渡辺町長　　そこが難しいんです。どちらかというと関心のある子が楽しんでいる姿をみて何か行きたいなと思わないかなというなんとなくそんな働きかけはしてきたつもりなんですけれども。なかなか動かない子は全く動かないので。それで動く子がいいとか悪いとかいうわけではないんですけれども二極化は世の常だなと感じます。

中島委員　　郷土を愛しというのが難しいなと思います。今の子たち、我々もそうなんですけれども、買い物はイオンに行ってすればいいし、そこにないものは楽天かアマゾンで買えばいいし、子どもたちはゲームは switch でネットにつないで家の中で遊んでいるし、自分が住んでいる土地とあまり関わっていないんですよ。そこで自分が住んでいる土地である御嵩にどう関心を持つんだろうということを思って、郷土を愛すというところの定義というのか、難しいなと思いました。きっと郷土を愛しって大人になってから感じるんですよね。子どもの頃はなんにも思っていないので。

渡辺町長　　おっしゃるとおりで、なんとなく後からできてくるのが愛するということであって、愛すべきだというふうに入ると絶対おかしいと思うし、結果よかったよね、ここに住み続けたいよねと思ってもらえるということですよね。

中島委員　　社会人になってから、やっぱ御嵩でいいなと思っている経験であったり、感情という部分をどう積み上げていくのかなというところだと思います。

渡辺町長　　そういう意味ではなんというか、祭りとか伝統芸能といったものに関わっていた人ってそのときは嫌で嫌で仕方ないけど、行かざるを得なくてやっていたらなんとなく好きになってしまったといったような。

中島委員　　大人になっても体と耳が覚えているといったような。でも自治会が今は結構崩壊してきているから、お祭りで獅子とかやっていたのももうなくなってしまっているし、町民運動会もなくなってきているし、でもなかなかそれを復活させるのも難しくて、ジレンマがありますよね。

渡辺町長　　自治体共通の悩みであり、少子高齢化の波の中で、どう維持していくかも含めて、もう究極なところですから、そこは。

山口委員　　僕も今の郷土を愛しっていうのが結構きついなと思って、このことだけではなくていつも思っていて、今話を聞いていたらやはりそういう愛せ愛せを前面にするのではなくて、結果として最終的に愛せるようなことをしてあげるというのが大事かなということを今お話を聞いていて思いました。なかなか郷土を本当に好きにならない、働き場所がたくさんあるとか、すごい商業地があるとか、そういうところだと好きになるかもしればいけれども正直ありますよね、心のどこかに我々でも。それを無理やり前面に出すのではなくてというのは大事だなと思ったところです。

それともう１ついいですか。郷土を愛しとは少しずれるかもしれませんが、例えば今町長がアスリートなんかを、パラリンピック選手を連れてこられたり、英語だと今ＡＬＴの先生がたくさんいるところから派遣してみえたりで、あの組織ってすごいんですね。ＡＬＴの先生って。そういう充実したことをやっているわけですけれども、例えば町長も何回も聞かれていると思うんですけれども、理科の先生系のいわゆる大学院くらいの職はないけど教授にもなれないといった人がたくさんいるので、そういう人を町として一人くらい講師に呼んで専門的なそういう教育が受けられるようなことをやるというのも非常に効果が高いような。なかなか学校の先生は総合的には勉強してらっしゃるんですけれども、そういう専門的なところに打ち込んでいる課程ではないので、そういう人がいることによって、子どもたちはそういう道も見つけやすくなるということがあるので、そんなようなことも考えながら役に立てていけたらなと。

渡辺町長　　そうですね。知っている方がたくさんいるそうですので。それは私も直接聞きました。

奥村教育長　　結構学校では、例えばサイエンスワールドから講師を招いた特別授業のようなものを取り入れて、今、理科離れといったことがあるので、そういったことへの子どもたちの興味関心を高めていくというような取り組みというのは全ての学校ではないですけれども、取り組まれているところがあったりするんですけれども、なかなか全ての学校を回ってもらうわけにもいかないので、今のような方がいらっしゃれば、また紹介していただければと思います。

山口委員　　今、日本の論文数が韓国よりも少なくなったと言われていますが、今は大学院生の修士がいないんですよね。ドクターが。だから論文数は自然的に減るということをこの前誰か言ってみえたけど、例えばそういったことをモデル的に例えば岐阜大学とか名古屋大学とかを御嵩町でやって、大学院生たちがもう少し将来にわたって研究をしようみたいな流れになれば、なかなかそうはいかないかもしれませんが、そういうきっかけにはなるかもしれませんね。県とかにここをモデルにしてもらって。

中瓦委員　　御嵩が教育が売り物の町だよっていうくらいになっていくと本当に教育に関わる身としては。本当に学校がこれだけあるし、環境はいいと思うんですよ。二村先生も町長も言ってましたと言われたんですけれども、英語ができる高校生たちが将来的にＡＬＴでここに配属できるような流れもあったらいいなとおっしゃっていて、ちょっと申し上げたんですけれども、例えば、インターンで戻ってきてここに定着してくれるというのももちろんありがたいんですけれども、今の高校生たちをアルバイトで使うような手立ても１つあると高校生たちにとってもプラスになっていくだろうし、なにか子どもたちを集められるところで、英語教室をやるとかすごい力になるような気がしたんですけれどもあの子たちは。

渡辺町長　　ありがとうございます。ご意見として。

ちょっと東濃高校生とか外国に由来のある方あるいは語学を、まあ日本語はあまりだけれどという方もどんなふうに、それこそ先ほどの取り残さないというところも含めて、むしろ子どもたちのプラスの部分。いい部分を引き上げたほうがいいんじゃないかと個人的には想いはあるので、そこに地域が絡んできて、地域の役にたったよという話ができるとすごくその子たちもやりがいがあるし、地域にとっても変わってきたね御嵩という話になるので、せっかくインバウンドでお客さんが入ってきたりすることもあるので、そういったところでなにか使えないかなと少し個人的に思っていますのでなにか事業ができるといいなと思います。

奥村教育長　なにか地域でいい思いをしたとか、御嵩っていいなと思うそういう実感があればさきほどの郷土愛ではないけれども、つながっていくのではないかと思ったりするんですけれども。その機会をどれだけさきほどの決して押し付けるのではなくて子どもたちに提供できるかというところが大事かなと思うんですけれども。

渡辺町長　今の議論じゃなくてもいいんですけれども、その他意見があれば。

山口委員　１つだけすいません。これから、御嵩町だけではないですけれども、少子化というのがどうしてもあるので、ここのことについても少し具体的に考えていかないといけないなと。

渡辺町長　言いたいことはこうだろうなとなんとなくわかりますけれども、いずれにしても教育環境であったりだとか場という意味でいったときに当然施設系も老朽化してきますので、そういったことも相まって総合的に将来どうあるべきか少子高齢の前提の中でということも捉えていかないとならないので、この場でもいろいろ揉んでくことが出てくるかと思いますけれども、またぜひそういったご意見もいただきながら進めていきたいと思います。

山田総務部長　大綱前にこのメンバーが集まるのはこれで最後でしょうか。ちょっと確認ですけど、御嵩町で大綱ができたのはすごい意義があると思うんですけれども１ページの下の整合の矢印は２つとも下で問題ないか。矢印は通過しているのか。

髙木教育参事　本当はそういうことになりますと、教育大綱の幅をちょっと狭くして６次の総合計画と夢プランが整合っていう意味の相互の矢印にします。

奥村教育長　ここが上下の矢印にならないといけない。

渡辺町長　斜めに引くのはどうか。飛び越して。

髙木教育参事　そうします。形的には６次の総合計画が１番上にあって、教育大綱があって、夢プランというそういう整合と６次の総合計画と夢プランの直接的な整合というところが図りたいという意味の矢印であって、教育大綱がそれぞれに整合という意味ではない。

渡辺町長　位置をずらして三角のようにするなど、形からこだわったほうがいいかもしれない。

髙木教育参事　サンプルのものは教育大綱を短くして、ここで直線があるようなものがあったりしたんですけれども元々は。

渡辺町長　少し気になったんですけれども、先ほどの山口委員や中島委員が

言っていただいた部分で、郷土愛の部分はちょっと結構強いなと思った。郷土愛があるという前提でこれを受け入れるべしみたいに入る感じがあるので。まだ修正は聞くのか。

髙木教育参事　修正は全然聞かないわけではないですけれども、今ちょっと聞いていて、郷土愛に変わる言葉というのが。

渡辺町長　郷土愛は使ってもいいんですけれども、先ほど山口委員が言ってもらった、郷土愛を例えば将来的にわたって醸成していくようなとか、いけるようなとか、そういうような表現の仕方で。

髙木教育参事　今の基本理念の中で、そのようなことが入ってくるイメージですかね。

渡辺町長　郷土愛という言葉が使われているところはちょっと注意して表現を見直した方がいいのかもしれないなと思います。

筒井副町長　これの読み方が、この郷土を愛しというのが郷土を愛することでのように受け止められてしまう。それを前提としてというふうに読めてしまうかもしれないんですけども、ただこれは郷土を愛し未来を創造する人間力が目指すところであって、結果であって、そこが読みやすいようにできるといいのかなと思っていた。

中瓦委員　郷土を愛することと人間力の育成が別立てみたいなことになってしまうとっていうことですね。

筒井副町長　なのでプロセスといいますか、郷土を愛することがプロセスのように読めてしまうと、すごく重たくなってしまうんですけれども、さきほど中島委員が言っていたみたいに郷土を愛することというのはもっとずっと先のことかもしれないので、そういう人を作り上げていくこれが結果であって、それを育成していく。

山田総務部長　未来を創造する人間力の育成と郷土を愛する育んでいくということですね。

奥村教育長　そうすると基本方針の１番のところの表現も若干見直しをしたほうがいいということになるかな。

筒井副町長　書きぶりとしては似てますね。

奥村教育長　この終わり２行のところもね。一人ひとり郷土愛に根差したより良い社会の作り手。今のお話しでいうと前提として郷土愛が無くてはいけないよという捉えられ方になってしまうといけないという。本位はそうではないけれども。

髙木教育参　１番トップの言葉なのでここが肝なのでここをここからちょっと

事　　新しいのを考えていくというのはパワーがいる。正直なところ。今までずっと使ってきたような言葉でもあるので余計にそういうふうにも取れるねっていうことを聞くとなるほどと思うんですけれども。

奥村教育長　けれども私は郷土を愛しという言葉を使うことにはなにも問題はないと思うので。

山田総務部長　郷土を愛する力と人間力を育成するということですね。違うのか。別のものでもないので。

奥村教育長　郷土を愛し、そういう心を持ちながら、あるいはそういう体験をしながらともにまちづくりをしていく。

渡辺町長　どちらかというとなんでしょう。先ほどの話を含めてなんですけれども。郷土愛というのは最初から正面から行くというよりも結果郷土愛が醸成されることをとかいうそういう。意味合いとしては。

奥村教育長　御嵩っていいなとか、僕たちの住んでいるここの地域って良いところだなと思うそういう気持ちを持つだけでも私はいいと思うし、それって郷土を愛する心に繋がっていく。

筒井副町長　なにか最終系というか郷土を愛するということが１番後の方にくるということか、なにかそういう意味合いですよね。

中島委員　文章ではかけるけど、スローガンでは難しいですね。

奥村教育長　県のほうの振興計画の目指す人間像なんかをみてみると、やはり先にそっちがきてます。ふるさと岐阜で育んだ自信と誇りを胸により良い未来の実現に挑み続ける。

筒井副町長　育んだだったらいいと思います。愛しになってしまうと押しつけがましくなる。

渡辺町長　単純に言うんであれば今の郷土を育みとかにしてしまうと、育みなので別にしろとかそういうふうじゃないとなるけれど。

筒井副町長　先ほど教育長がおっしゃられた岐阜県はなんで書いてありましたか。

奥村教育長　ふるさと岐阜で育んだ自信と誇りを胸に。

山口委員　岐阜県はいいですね。わかりやすい。

髙木教育参事　夢プランの２１ページですね。

奥村教育長　ここを持ち帰るとなると厳しいところがある。ちょっと皆さんに知恵をお借りできるとありがたい。

筒井副町長　全然関係ないことですけれども今の２１ページの緑枠の御嵩町教育大綱の基本理念のすぐ下で、郷土の郷を１つ下げないといけないのではないか。

髙木教育参事　一文字空けたほうがいいのではないかという字下げの話ですね。文書校正的にはそれはそうかもしれないです。そうなってくると細かい話ですけれども岐阜県のほうも１つ文字。ここは全て体裁的に左寄せにしているだけなので、文書で考えれば常に両方とも基本理念と目指す人間像の下は一文字空けた一字下がりで統一的にやればそれはそれでいいと思いますけれども。

奥村教育長　郷土を愛する心を育みとか。

渡辺町長　育むというような言葉がないと緩和されない。

奥村教育長　育みつつ創造する人間力もともに育てていく。

渡辺町長　育みだからそういうことをやれるようなアプローチをしていくということなので、やりなさいではなくて。一行で書けるかという問題はあるけれども。

今お話あったのは、郷土を愛する心を育み。

髙木教育参事　今、ＡＩに郷土を愛する心を育むを、郷土を愛するを育むを使った言葉に変わらないかというふうに聞いてみると郷土愛を育む。郷土への愛を育む。郷土を愛する心を育む。郷土愛を深める。郷土への想いを育てる。といったような言葉はどうかという提案はされた。愛する気持ちを想いに置き換えると柔らかい表現になりますと書いてある。

筒井副町長　１番最後の言った言葉はなんだったか。

髙木教育参事　郷土への想いを育てる。

郷土を愛する心を育むということについては、感情や気持ちを強調した表現に変えたらどうですかという提案があります。最初に出てきた愛する心を育みという言葉はなるほどと思えたので、ＡＩも同じように考えたので、いい言葉なのかもしれません。

では、今の郷土を愛する心を育むを中心にちょっと考えてここだけを少し直して、今一度、言葉的には今町長からもお話をいただいたので町長と調整させていただいて、町長のゴーサインが出たらそ

れで決定という形にさせていただければ、ちょっと年明け早々にそのように対応させていただきたいなと思いますが、それでよろしいでしょうか。

全員　　異議なし。

髙木教育参事　教育委員の方々におかれましては、申し訳ないですけれど、やっと昨日、総合教育会議に夢プランのほうが出せるような形で、委員の方々には事前にお渡しして、なにか意見があればいただきたい。あとは、策定協議会で意見をいただきたいという形で意見をいただきましたので、今回お渡しをさせていただきますので、ちょっとまた意見を、ここの意味が分からないとか、ここはこんなふうにしたほうがいいのではないかとか、指標のところなんかもみていただいて、こんなふうにしたらとかそんな提案もいただけるとありがたい。それを踏まえて、今一度、策定協議会のほうでも直させていただきますし、今度の教育委員会の中で多少中のことについては少し説明をさせていただければと思いますので、その辺りで、教育委員の皆さまのご意見も踏まえた形の夢プランにしていきたいと思っておりますので、すいませんがよろしくお願いいたします。

髙木教育参事　それではすいません。長い時間ありがとうございました。夢プランにつきましては、大綱は言葉を変えさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。その他のほうが特になければ次の流れですけれども、この後伏見小学校のほうに移動していただければと思います。

ではこれで第２回の総合教育会議を閉会したいと思います。ありがとうございました。

14：18 閉会